

ほのぼのファミリー通信 Vol. 9

2002年7月発行
第1巻第9号(通巻9号)
発行人:横山 雅之
発行所:全国二分脊椎症協会
山形支部
ほのぼのファミリー
編集人:横山 和江

平成14年度山形支部総会開催

去る3月24日(日)、平成14年度日本二分脊椎症協会山形支部の総会を、天童市福祉センターにて行いました。今回は、畳の部屋に口の字に机を囲みアットホームな雰囲気で行いました。参加家族は、9家族。お子さんが大きくなると都合が合わないことも多く、参加者が減少傾向にあることがちょっと残念です。

総会では、例年通り昨年度の活動報告および決算報告を行い、今年度の活動計画案と予算案が了承されました。会員数は、1名退会、1名入会で増減なしの18名です。今年は、会の広報活動の一環として、ポスターを作成し、療育センターなどに掲示することにしました。また、会員からのアンケートを元に作成した、「市町村別福祉一覧」と「通院施設一覧表」を会員に配布しました。これらの情報は、今後も更新していく予定です。

今年度の活動計画

- ・ 8月 レクリエーション(キャンプ)
- ・ 11月 BCブロック交流会(福島)*1
- ・ 12月 クリスマス会*2
- ・ 3月 総会
 - *1 BCブロック(関東から東北)の親睦を深めるため1泊2日で実施予定。詳細は後日連絡します。
 - *2 恒例の芋煮会をクリスマス会に変更しました。楽しい企画になるようがんばりますので、奮って参加ください!

講演会は、山形市の(有)田中義士装具製作所経営の田中賢治さんをお呼びして行いました。「親離れ・子離れ、そしてスポーツ」という演目で、いろいろなお話をしてくださいました。以下は、田中さんがお話ししてくださった内容の要約です。

【田中賢治さん略歴】

秋田県大館市出身。現在65歳。小学4年生の時



に負ったけがのため、片足大腿部を失い義足に。昭和27年、義肢装具製作を勉強するために、仙台市の「東北厚生興業」に就職し、2年後山形市に移住。さらに数年後現在の会社を設立する。社長業の傍ら、ライフワークであるスポーツ(野球、スキー、卓球、水泳など)を何でもこなし、障害者スポーツ指導員の資格を取得。初代・山形県身体障害者スキー協会会長をはじめ、各種スポーツ団体の要職を歴任されている。

わたしは16歳の時に就職し、昼間は仕事、夜は東北大医学部で勉強をしていました。厳しい父親が「障害を持っているなら、手に職を持った方がいい」といったからです。最初は家が恋しくてたまりませんでした。休みに野球をすることで気がまぎれました。

今振り返ってみると、人生の壁を乗り越え、故郷から遠く離れた山形に根ざすことができたのも、スポーツを通して得られた仲間やチャレンジする喜びがあったからこそだと思っています。

思春期は他人と比較し、一番悩む時期だと思えます。わたし自身死をも考えることがありました。しかし、そんな時もスポーツをすることによって乗り越えられたのです。

スポーツにはいろいろありますが、単に外に出るだけでもいいのです。絵や写真でもいい、とにかく好きで夢中になるものをみつけることが大切なのです。

障害を持っていると、できないいいわけを障害の

せいにしがちですが、それはいけません。子どもを甘やかしていると、後で苦労するのは、子ども自身なので。悪いことをしたときは、どんどんしかりましょう。

現在、装具は素材、機能、デザインなどに新しいものがどんどん取り入れられています。指定されたものに従うだけでなく、自分で情報収集して積極的に装具に対する要望を出していきましょう。

～田中さんの講演会を聞いて～

..*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:

田中先生の講演を聞いて、色々な困難を乗り越えて来たことに、改めて驚かされました。子どもは車椅子で、最近では自分の意思が芽生えてきたのか、進んで何でも行動をしています。学校も家庭もスムーズな生活が出来るようにと、工夫したりしていますが、まだまだ不備な点があります。子どもがどんな壁にあたってても常に親がサポートできるように、前向きにがんばっていこうと思います。

..*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:

田中さんの講演を聞いて、正直なところショックでした。小さいわが子がいつまでも小さいままでいてくれたら.....と成長に伴う壁から目をそむけていた部分もあったからです。自分なりに親として、将来わが子が、健常者が大半の世の中で生活していくに困らないように育てているつもりでしたが、やはり特別に手を差し伸べてしまう事があります。愛おしさで守ってあげたい気持ちもあり、痛みもあり.....しかし、話を聞いて、親として、子どもの立場として、のあり方が少し見えたような気がしました。親の痛みはきっと田中さんもおっしゃったように、一生消えることはないと思います。が、壁をすんなり越えられる柔軟な気持ちに育てることはこれからの親の課題だと実感しました。

本当に想像以上の貴重なお話が聞けて大変良かったと思います。(田中さんの親の立場、ご病気をされてからの人生は、かなり重なる部分があったので、一番知りたかったことだったかもしれません。)ありがとうございました。

..*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:.~*~*:

補装具のことで色々な事が聞けたので大変良かったです。参考にさせていただきます。

講演会終了後は、中華料理店で懇親会を行いました。大人テーブルと子どもテーブルに分かれ、それぞれ大いに盛り上がり楽しい時間を過ごしました。年長の子が、小さい子の面倒を自然に見てあげる姿をみると、みんな成長したのだなぁと感慨深かったです。



福祉定期預金について

福祉定期預金の廃止にともない、郵便局では、「ニュー福祉定期」を開始しました。利率は、預入期間1年の定期郵便貯金の利率(預入時)+1%です。この制度は、特別児童扶養手当受給が対象になります。詳しくはお近くの郵便局までお問い合わせください。